

2014年9月10日 発

報道関係者各位

学校法人東北学院 法人事務局広報部広報課

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1

電話: 022-264-6423 / E-Mail: koho@tohoku-gakuin.ac.jp

映画上映会&講演会

地域の営みをいかに描くか

—震災前の暮らしと被災地の今をめぐって—

開催のお知らせと取材のお願い

下記要領で開催いたしますので各社取材をお願いいたします。

開催日：2014年9月20日(土) 13:00～18:00

会場：東北学院大学土樋キャンパス押川記念ホール

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

入場料：無料（定員300名／申込不要）

14:10から

『波伝谷に生きる人びと』（2013年、134分）上映

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から 3年が経過しました。危機管理や自治体との協働を担う人材の育成、教育・研究基盤の形成やイノベーションの創出、そして大学自らの改革—大学に求められているものは何なのかを考えることが非常に重要視されています。地域の課題の解決や地域社会の再生・活性化に大学が果たすべき役割がかつてないほど大きいことを私たち大学人は再認識しなければなりません。

想定外の事態に遭遇した時に、問題を発見し、解決するための道筋を見定める人材の育成が求められている今、大学には、社会貢献を見据えた教育改革・ガバナンス改革が求められています。これこそ、「大学のちから」といえるでしょう。今、東北の地で私たちが持つ「大学のちから」について改めて語り合い、未来に向けて発信しましょう。

【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学文学部歴史学科民俗学研究室 政岡伸洋

TEL&FAX 022-721-3360(研究室直通)

E-mail nmasaoka@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

*夏休み期間中につき不在のことが多く、できるかぎりE-mailでお願いいたします

当日プログラム

- 13:00 開会のあいさつ
- 13:10 講演 政岡伸洋(東北学院大学文学部歴史学科教授)
「震災からの暮らしの3年間をどう見ればよいのか」
- 14:10 映画上映
我妻和樹監督作品『波伝谷に生きる人びと』(2013年、134分)
- 17:00 対談 小谷竜介(東北歴史博物館学芸員)・我妻和樹・政岡伸洋
「地域の営みをいかに描くか」
- 17:40 コメント
- 17:50 閉会のあいさつ



◆『波伝谷に生きる人びと』(我妻和樹監督)〈作品紹介〉◆

宮城県南三陸町の海沿いに位置する戸数約80軒の波伝谷(はでんや)部落。本作は、東日本大震災による津波で壊滅したこの小さな漁村に生きる人びとの、震災前の日常を追ったドキュメンタリー映画である。

物語は2008年3月に始まり、漁業者たちの日々の仕事や地域の年中行事、そこでの多様な人間関係が、ゆったりとした土地の空気とともに描き出されていく。過疎化が進みながらも豊かなくらしを育んできた波伝谷の人びとの時間と、そこに寄り添う作者自身の時間。二つの時間が重なりながら、物語はやがて2011年3月11日へと向かっていく…。

『人が生きている限り、人の営みは続いていく。』

震災前から東日本沿岸部の人の営みを見続けてきた作者が、震災を経験した日本人に贈る入魂の一作。

なお、本作品の上映会は7月18日の山元町での上映を皮切りに9月6日までに県内11の市町村で上映会が開催され、河北新報、石巻河北、塩釜のケーブルテレビマリネット、FMLいわぬま、FMたいはく、塩釜BAYWAVEなどで取り上げられました。

□ 作品フェイスブック <https://www.facebook.com/hadenyaniikiruhitobito>

□ 予告編 <https://www.youtube.com/watch?v=MZCzGZYGWQY>

【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学文学部歴史学科民俗学研究室 政岡伸洋

TEL&FAX 022-721-3360(研究室直通)

E-mail nmasaoka@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

*夏休み期間中につき不在のことが多く、できるかぎりE-mailでお願いいたします